

平成19年度
北陸地方建設事業推進協議会

「建設技術報告会」

実施報告書

平成19年12月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

目次

1. 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	2
5) 報告技術のテーマ	2
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	3
7) 聴講者数	4
2. 実施内容	
1) 開会式	6
2) 記念講演	6
3) 技術報告	6
4) プログラム	7
5) 報告技術一覧	9
6) 総評・閉会式	10
7) パネル展示コーナー	11
7) 新技術登録申請相談コーナー	12
3. 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	13
2) 主な経緯	13
3) 運営体制	14
4) 会場設営	15
4. 広報	
1) 広報活動	19
2) 広報掲載状況	19
5. アンケート	
1) 設問内容	25
2) 配布・回収	25
3) アンケート結果概要	26
4) 設問別集計結果	28
6. 開催状況写真集	
1) 開閉会・記念講演	38
2) 技術報告	39
3) パネル展示	40
4) 新技術登録申請相談コーナー	40
5) 運営状況等	41

1. 開催概要

1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催するもので、平成7年度から開催され、今回で第12回目の開催となりました。

2) 開催日時

当初、本報告会の開催を平成19年10月11日（木）として運営を進めてきたが、7月16日に発生した新潟県中越沖地震の復旧に関係者が早急に取り組む必要があり、復旧への影響を避けるため、開催日を平成19年11月1日（木）に変更した。

●平成19年11月1日（木） 9時00分～17時00分

■ 受付 9時00分～ 4階 会場前ロビー（越後 東+西前）

■ 開会式 9時20分～9時30分 4階 越後（東+西）
開会挨拶 北陸地方整備局 企画部長 橋場 克司

■ 記念講演 9時30分～10時15分 4階 越後（東+西）
演 題 「新技術の活用に向けて」
講 演 者 北陸地方整備局 地方事業評価管理官 岩田 英二

■ 技術報告
第1会場 10時35分～16時41分 4階 越後（東）
第2会場 10時35分～16時23分 4階 越後（西）

■ 閉会式 16時50分～17時00分 4階 越後（東）
総評、閉会挨拶 「平成19年度建設技術報告会」実行委員長
平田 五男（北陸地方整備局 北陸技術事務所長）

3) 開催場所

●使用施設

チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

住 所：〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-1

電 話：025-240-2111

施設専用駐車場：なし（有料：プラーカ1・地下駐車場、または近隣一般有料駐車場）

●使用会場

開会式・記念講演・・・・・・・・・・ 4階 越後（東+西）：聴講者400席

第1会場・閉会式・・・・・・・・・・ 4階 越後（東）：聴講者200席

第2会場・・・・・・・・・・ 4階 越後（西）：聴講者200席

パネル展示コーナー・・・・・・・・・・ 4階 会場前ロビー：16技術（パネル展示）

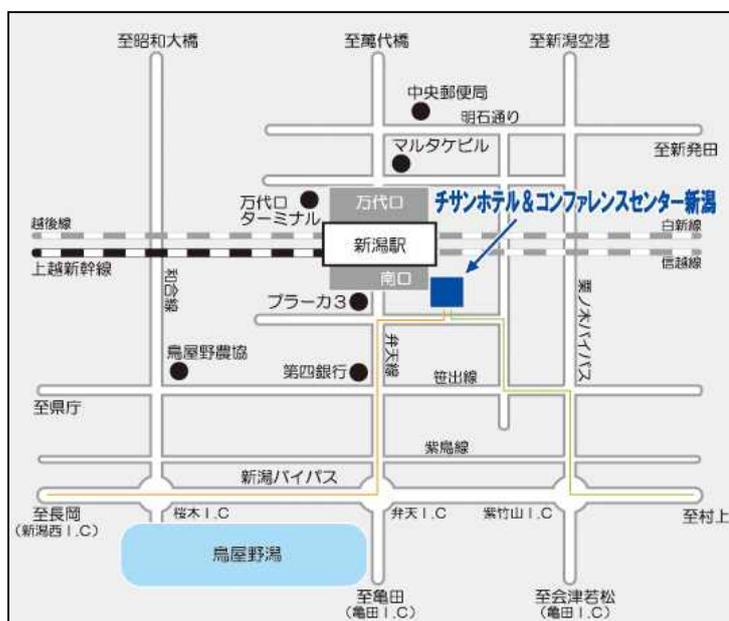
新技術登録申請相談コーナー・・・・ 4階 会場前ロビー：42技術（パンフレット配布）

事務局控室・・・・・・・・・・ 4階 弥彦（1）

来賓控室・・・・・・・・・・ 4階 弥彦（2）

■施設までの交通アクセス

- 電車 : JR「新潟駅」南口直結（上越新幹線・信越本線・越後線・白新線）
- 空港 : 新潟空港よりバス 30分 新潟駅下車
- 汽船 : 佐渡汽船ターミナルよりバス 20分
- 車 : 高速道路 - 日本海東北自動車道 新潟亀田 IC より新潟駅南口方面へ約 20分



4) 構成と報告時間

記念講演と技術報告会の2部構成とし、技術報告は2会場の分科会方式とした。報告時間は質疑・応答時間を含めて1課題18分とし、質疑・応答は発表者の任意により行った。

5) 報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題のテーマ（5テーマ）に「その他」を含めた6テーマの分類により、合計33題の技術報告を行った。

- ①雪に強い地域づくり
(克雪対策、冬期道路交通の安全確保に関する新技術・新工法)
- ②良いものを安く
(コスト縮減、省力化に関する新技術・新工法)
- ③自然災害からの安全確保
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術・新工法)
- ④環境の保全と創造
(建設副産物、リサイクルに関する新技術・新工法)
- ⑤ゆとりと福祉
(情報化、バリアフリーなどに関する新技術・新工法)
- ⑥その他
(上記のテーマ①～⑤に属さない新技術・新工法)

【テーマ別報告技術数】

テーマ	報告技術
① 雪に強い地域づくり	2
② 良いものを安く	9
③ 自然災害からの安全確保	8
④ 環境の保全と創造	9
⑤ ゆとりと福祉	2
⑥ その他	3
計	33

6) 主催構成機関及び実行委員会構成

■主催構成機関

北陸地方建設事業推進協議会「平成19年度 建設技術報告会」実行委員会

以下に実行委員会構成機関（22機関）を示す。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社 中日本高速道路(株)金沢支社／(社)日本土木工業協会北陸支部 (社)日本道路建設業協会北陸支部／(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部 (社)日本建設機械化協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(社)富山県建設業協会／ (社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会 (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸PC防雪技術協会 新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会 (社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(社)北陸建設弘済会

■実行委員会構成

役員	所属	役職	備考
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課長	
委員	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課長	
委員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委員	富山県 土木部 建設技術企画課	技術指導係長	
委員	石川県 土木部 監理課 技術管理室	課長補佐	
委員	新潟市 工事検査センター	次長	本年より新規加盟
委員	東日本高速道路(株) 新潟支社 総合調整部 技術企画課	課長代理	
委員	中日本高速道路(株) 金沢支社 コーポレート部 企画調整チーム兼総務チーム	サブリーダー	
委員	(社)日本土木工業協会 北陸支部	副幹事	
委員	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	
委員	(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部	広報委員長	
委員	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	
委員	(社)新潟県建設業協会	契約制度部長	
委員	(社)富山県建設業協会	常務理事	
委員	(社)石川県建設業協会	参与	
委員	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術委員長	
委員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部	事務局長	
委員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	
委員	新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委員	(財)新潟県建設技術センター	業務部長	
委員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委員	(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	
委員	(社)北陸建設弘済会	事業調査室長	

7) 聴講者数

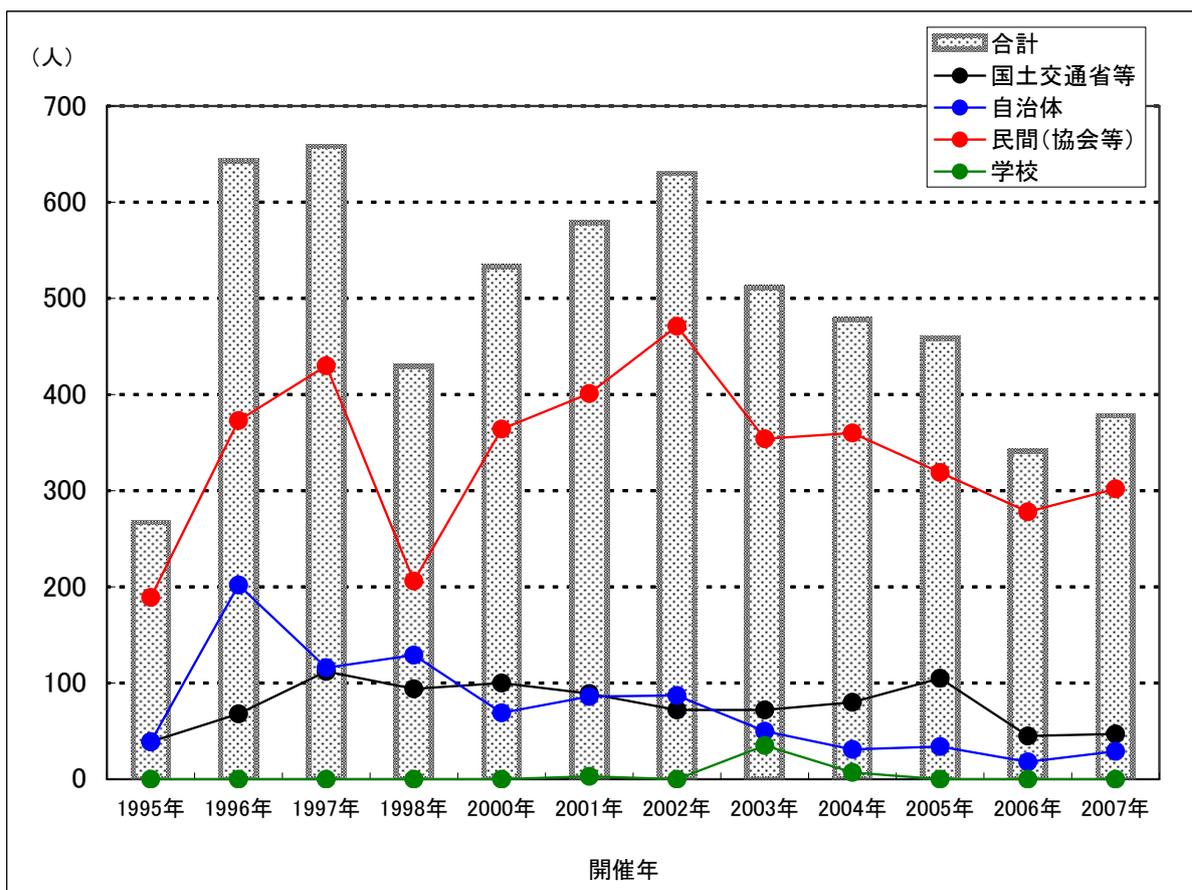
本報告会の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

「平成19年度建設技術報告会」 聴講者集計表

機関名		申込		実績	
国土交通省	北陸地方整備局	47	48	45	46
	他地方整備局	1		1	
その他省庁・公団	その他省庁・公団		1		1
自治体関係	新潟県	12	12	9	11
	新潟県 市町村	0		2	
	富山県	3	3	3	3
	富山県 市町村	0		0	
	石川県		0		0
	石川県 市町村				
	長野県		0	0	
	福島県		0	0	
	山形県		0	0	
	新潟市		19	15	
小計			83		76
協会等：主催	東日本高速道路㈱		5		0
	中日本高速道路㈱		3		1
	(社)日本土木工業協会		38		38
	(社)日本道路建設業協会		80		60
	(社)建設コンサルタンツ協会		33		22
	(社)日本建設機械化協会		34		27
	(社)新潟県建設業協会		25		17
	(社)富山県建設業協会		0		0
	(社)石川県建設業協会		0		1
	北陸土木コンクリート製品技術協会		10		8
	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会		6		4
	北陸P C防雪技術協会		0		1
	新潟県融雪技術協会		0		0
	(財)新潟県建設技術センター		4		5
	北陸地質調査業協会		4		3
	(社)日本埋立浚渫協会		18		17
	(社)北陸建設弘済会		16		17
小計			276		221
協会等：その他	(社)日本測量協会		0		0
	(社)建設電気技術協会		4		2
	(財)先端建設技術センター		2		0
	(財)河川情報センター		0		0
	(社)雪センター		1		2
	(財)道路保全技術センター		1		0
	(財)ダム技術センター		0		0
	(財)ダム水源池環境整備センター		0		0
	(財)リバーフロント整備センター		0		0
	(財)砂防・地すべり技術センター		0		0
	(財)日本建設情報総合センター		1		1
	(財)経済調査会 北陸支部		0		0
	(財)国土開発研究センター		0		0
	一般 (加入協会不明を含む)		34		38
	小計			43	
学校			0		0
報道			0		5
発表者			33		33
小計			33		38
(官 公 庁 合計)			83		76
(民 間 合計)			352		302
合計			435		378

■ 「建設技術報告会」聴講者数の推移

〈「建設技術報告会」聴講者数（第1回～第12回）〉



開催年	1995年	1996年	1997年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
内訳												
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29
民間(協会等)	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278	302
学校	0	0	0	0	0	3	0	35	7	0	0	0
合計	267	643	658	429	533	579	630	511	478	458	341	378
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市

- 注) 1. 発表者及び報道関係者は、「民間(協会等)」に含む。
 2. 運営スタッフは、人数に含んでいない。
 3. 「自治体」には、市町村関係者を含む。



2. 実施内容

1) 開会式

時 間： 9時20分～9時30分
会 場： 4階 越後（東+西）
開会挨拶：北陸地方整備局 企画部長 橋場 克司
司 会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



2) 記念講演

時 間： 9時30分～10時15分
会 場： 4階 越後（東+西）
演 題：「新技術の活用に向けて」
開会挨拶：北陸地方整備局 地方事業評価管理官 岩田 英二
司 会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



3) 技術報告

時 間： 10時35分～16時41分（第二会場は16時23分終了）
会 場：第1会場 4階 越後（東） 17技術
第2会場 4階 越後（西） 16技術
司 会：第1会場 北陸地方整備局 施工企画課 課長補佐 大井 孝輝
(社)日本土木工業協会 林 英輝
第2会場 北陸地方整備局 海洋環境・技術課 課長補佐 東條 慎太郎
(社)日本道路建設業協会 滝沢 亜紀

第1会場実施状況



第2会場実施状況



4) プログラム

技術報告は以下のプログラムに沿って実施した。なお、本プログラムは報文集に掲載した。

「建設技術報告会」プログラム

= 第1会場【越後(東)】 =

▼ 開会式・記念講演

9:20 ~ 9:30	開会式 (開会挨拶)	北陸地方整備局 企画部長	橋場 克司
9:30 ~ 10:15	記念講演	北陸地方整備局 地方事業評価管理官	岩田 英二

▼ 第1会場 報告技術

10:35 ~ 10:53	③	安定性に優れた被覆ブロックの開発 錦織 和紀郎 [(株)不動テトラ ブロック環境事業本部 技術部]
10:53 ~ 11:11	③	非鋼繊維を混入したトンネル覆工コンクリートの品質向上に関する検討 歌川 紀之 [(佐藤工業(株) 技術研究所)]
11:11 ~ 11:29	③	超高強度繊維補強コンクリートブロックを用いた耐震補強工法 平松 一夫 [(株)奥村組 技術本部 建築部]
11:29 ~ 11:47	③	大成リアルタイム地震防災システムの開発と適用 坂下 克之 [(大成建設(株) 技術センター 土木技術研究所 土木構工法研究室)]
11:47 ~ 12:05	③	無人化施工における3次元バックホウコントロールシステムの適用 藤沢 秀行 [(株)大本組 技術本部 技術開発部]
12:05 ~ 12:55	休憩	
12:55 ~ 13:13	③	災害用トイレの開発 坂内 幸介 [(北陸地方整備局 北陸技術事務所)]
13:13 ~ 13:31	③	空洞の存在により複雑な崩壊を生じた長岡市妙見町の県道地震災害復旧 七沢 正人 [(新潟県長岡地域振興局 災害復旧部 河川改良第一課)]
13:31 ~ 13:49	③	中心市街地における雨水貯留管の整備 中島 正人 [(新潟市下水道部 東部地域下水道事務所)]
13:49 ~ 14:07	④	ダイオキシン類汚染底質の焼成無害化処理技術 ソイルクリーンシステム(ソックス工法)について 金井 実 [(株)本間組 土木事業本部 技術部]
14:07 ~ 14:25	④	瓦ダスト舗装HA(サーモスカラーコンクリート) 淀瀬 博文 [(株)佐藤渡辺 技術研究所]
14:25 ~ 14:43	④	表基層対応の振動軽減舗装の開発と適用事例 尾本 志展 [(株)NIPPONコーポレーション 技術研究所 研究第一グループ]
14:43 ~ 14:53	休憩	
14:53 ~ 15:11	④	加熱表面処理工法による路面維持 本間 悟 [(福田道路(株) 技術研究所)]
15:11 ~ 15:29	④	アーバンクール(遮熱型)低臭タイプの開発 小柴 朋広 [(世紀東急工業(株) 技術本部 技術研究所)]
15:29 ~ 15:47	④	粘性土における植生基盤改良実績と環境負荷低減への取組み 松川 晃之 [(鹿島建設(株) 北陸支店 土木部)]
15:47 ~ 16:05	④	プラズマ岩盤破碎技術(PAB工法) 北原 成郎 [(株)熊谷組 土木事業本部 機材部]
16:05 ~ 16:23	④	新潟市内汚染サイト抽出微生物のバイオレメディエーション適応性の検討 小林 正利 [(株)福田組 技術部]
16:23 ~ 16:41	④	TRD発生泥土リサイクルシステムについて 五十嵐 秀樹 [(株)本間組 土木事業本部 技術部]

▼ 総評・閉会

16:50 ~ 17:00	総評・閉会	北陸地方建設事業推進協議会「平成19年度 建設技術報告会」実行委員長 平田 五男 (北陸地方整備局 北陸技術事務所長)
---------------	-------	--

技術報告テーマ:

- ①雪に強い地域づくり、②良いものを安く、③自然災害からの安全確保、④環境の保全と創造、⑤ゆとりと福祉、⑥その他

= 第2会場【越後(西)】 =

▼ 第2会場 報告技術

10:35 ~ 10:53	⑥	構造物診断装置の開発 佐藤 栄治 [北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所]
10:53 ~ 11:11	⑥	新・新潟市民病院の建設技術 清水 隆志 [新潟市建築部 公共建築第1課]
11:11 ~ 11:29	⑥	特殊改質アスファルトによるリフレクションクラック抑制工法 島崎 勝 [大成ロテック(株) 技術研究所]
11:29 ~ 11:47	②	アルミナセメント系耐硫酸性モルタル 佐藤 英頼 [㈱加賀田組 事業企画本部]
11:47 ~ 12:05	②	鉄筋腐食抑制含浸系表面保護工法 プロテクトシルC I T 柏崎 隆幸 [㈱アドヴァンス 技術部]
12:05 ~ 12:55	休憩	
12:55 ~ 13:13	②	全ての鋼材を被覆仕様としたプレテン桁の製作と架設～質場橋施工報告～ 武田 祐二 [オリエンタル建設(株) 北陸支店]
13:13 ~ 13:31	②	小規模アンダーパス工法(COMPASS工法)の開発 加藤 健 [鉄建建設(株)]
13:31 ~ 13:49	②	高強度RCプレキャスト舗装版の開発とその施工例 若山 裕泰 [㈱ガイアートT・K 新事業推進室]
13:49 ~ 14:07	②	道路建設工事における情報化施工 山口 達也 [鹿島道路(株) 機械部]
14:07 ~ 14:25	②	遮水型排水性舗装工法(POSMAC) 小河 浩幸 [東亜道路工業(株) 北陸支社 技術部]
14:25 ~ 14:43	②	フォームドアスファルトを用いた予防的維持工法の検討 荒尾 慶文 [日本道路(株) 技術部 技術グループ]
14:43 ~ 14:53	休憩	
14:53 ~ 15:11	②	靱性モルタルライニング工法 仲丸 政美 [㈱アドヴァンス 技術部]
15:11 ~ 15:29	①	耐久性の向上を目的とした低空隙率の開粒度アスファルト混合物に関する検討 高橋 光彦 [大成ロテック(株) 技術研究所]
15:29 ~ 15:47	①	空気を熱媒とする路面融雪装置ACCESSの開発 藤野 丈志 [㈱興和 水工部]
15:47 ~ 16:05	⑤	新潟東西道路を対象としたCCTV映像を活用した交通調査実験 松田 真宜 [エヌシーイー(株)]
16:05 ~ 16:23	⑤	側溝修繕用暗渠蓋(リペアリッド)の開発 長崎 文博 [藤村ヒューム管(株) 開発部]

技術報告テーマ：

- ①雪に強い地域づくり、②良いものを安く、③自然災害からの安全確保、④環境の保全と創造、⑤ゆとりと福祉、⑥その他

5) 報告技術一覧

主催機関・団体別の報告技術は以下の33技術である。

〈報告技術一覧（機関・団体別）〉

機関・団体名	テーマ 番号	報告技術名	会社・機関・部署等
北陸地方整備局	③	災害用トイレの開発	北陸地方整備局 北陸技術事務所
	⑥	構造物診断装置の開発	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所
新潟県	③	空洞の存在により複雑な崩壊を生じた長岡市妙見町の県道地震災害復旧	新潟県 長岡地域振興局 災害復旧部 河川改良第一課
新潟市	③	中心市街地における雨水貯留管の整備	新潟市 下水道部 東部地域下水道事務所
	⑥	新・新潟市民病院の建設技術	新潟市 建築部 公共建築第1課
(社)日本土木工業協会 北陸支部	②	アルミナセメント系耐硫酸性モルタル	(株)加賀田組 事業企画本部
	②	小規模アンダーパス工法(COMPASS工法)の開発	鉄建建設(株)
	③	超高強度繊維補強コンクリートブロックを用いた耐震補強工法	(株)奥村組 技術本部 建築部
	③	非鋼繊維を混入したトンネル覆工コンクリートの品質向上に関する検討	佐藤工業(株) 技術研究所
	③	大成リアルタイム地震防災システムの開発と適用	大成建設(株) 技術センター 土木技術研究所 土木構工法研究室
	④	粘性土における植生基盤改良実績と環境負荷低減への取り組み	鹿島建設(株) 北陸支店 土木部
	④	新潟市内汚染サイト抽出微生物のバイオレメディエーション適応性の検討	(株)福田組 技術部
	④	プラズマ岩盤破碎技術(PAB工法)	(株)熊谷組 土木事業本部 機材部
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	①	耐久性の向上を目的とした低空隙率の開粒度アスファルト混合物に関する検討	大成ロテック(株) 技術研究所
	②	道路建設工事における情報化施工	鹿島道路(株) 機械部
	②	高強度RCプレキャスト舗装版の開発とその施工例	(株)ガイアート T・K 新事業推進室
	②	遮水型排水性舗装工法(POSMAC)	東亜道路工業(株) 北陸支社
	②	フォームドアスファルトを用いた予防的維持工法の検討	日本道路(株) 技術部 技術研究所
	④	瓦ダスト舗装HA(サーモスカラーコンクリート)	(株)佐藤渡辺 技術研究所
	④	アーバンクール(遮熱型)低臭タイプの開発	世紀東急工業(株) 技術本部 技術研究所
	④	加熱表面処理工法による路面維持	福田道路(株) 技術研究所
(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	⑥	特殊改質アスファルトによるリフレクションクラック抑制工法	大成ロテック(株) 技術研究所
	⑤	新潟東西道路を対象としたCCTV映像を活用した交通調査実験	エヌシーイー(株)

機関・団体名	テーマ 番号	報告技術名	会社・部署名
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	②	鉄筋腐食抑制含浸系表面保護工法 プロテクトシルC I T	(株)アドヴァンス 技術部
	②	靱性モルタルライニング工法	(株)アドヴァンス 技術部
	④	表基層対応の振動軽減舗装の開発と適 用事例	(株)NIPPO コーポレーション 技術研究所研究第一グループ
	⑤	側溝修繕用暗渠蓋(リペアリッド)の開 発	藤村ヒューム管(株) 開発部
(社)プレストレスト・コンクリー ト建設業協会 北陸支部	②	全ての鋼材を被覆仕様としたプレテン桁 の製作と架設～質場橋施工報告～	オリエンタル建設(株) 北陸支店
新潟県融雪技術協会	①	空気を熱媒とする路面融雪装置ACC E S Sの開発	(株)興和 水工部
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	③	安定性に優れた被覆ブロックの開発	(株)不動テトラ ブロック環境事 業本部 技術部
	③	無人化施工における3次元バックホウ コントロールシステムの適用	(株)大本組 技術本部 技術開発部
	④	ダイオキシン類汚染底質の焼成無害化 処理技術 ソイルクリーンシステム(ソ ックス工法)	(株)本間組 土木事業本部 技術部
	④	TRD発生泥土リサイクルシステムに ついて	(株)本間組 土木事業本部 技術部

技術報告テーマ：

①雪に強い地域づくり、②良いものを安く、③自然災害からの安全確保、④環境の保全と創造、⑤ゆとりと福祉、⑥その他

6) 総評・閉会式

時 間：16時50分～17時00分

会 場：4階 越後(東)

総評・閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 平田 五男
(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

司 会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



なお、聴講者の方々に、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術をアンケートでお聞きしたところ、以下の技術に興味を示されていました。

- 「災害用トイレの開発」 (北陸地方整備局北陸技術事務所)
- 「空気を熱媒とする路面融雪装置ACCESSの開発」 (株)興和水工部
- 「プラズマ岩盤破碎技術(PAB工法)」 (株)熊谷組土木事業本部

7) パネル展示コーナー

時 間： 9時00分～16時30分（会期中常設）
 会 場： 4階 会場前ロビー

報告技術以外の新技术を対象とするパネル展示コーナーを併設した。

なお、パネル展示は展示希望を募り、展示希望のあった16技術のパネル展示及びパネル展示技術の紹介パンフレット配布を行った。

〈パネル展示技術 一覧表〉

No.	技術名	出展者名
1	ビオ・セル・ショット工法	(株)大本組
2	融雪プレキャスト版工法	(株)ガイアートT・K
3	ジェット・スプレー工法(超高速硬化ウレタン吹付工法)	(株)加賀田組
4	サクセムPC橋梁	鹿島建設(株)
5	L・Lライン(路面表示延命化工法)	鹿島道路(株)
6	先行アーチ支保による地山補強工法PSS-Arch (プレ・サポーティング・システム・アーチ工法)	(株)熊谷組
7	コンクリート構造物の断面修復乾式吹付け工法	第一建設工業(株)
8	超高強度で高耐久な次世代コンクリート:ダクタル	大成建設(株)
9	しみるくん	大成ロテック(株)
10	TOAの常温薄層カラー舗装(ニューカラーコート) 【NETIS名:ニューカラーコート・E,P,F,C】	東亜道路工業(株)
11	高精度情報化施工NSPシステム	(株)NIPPOコーポレーション
12	レインボーウッドMg	日本道路(株)
13	W/Cミータ	(社)北陸建設弘済会
14	PCスノーシェッド	北陸PC防雪技術協会
15	MLT工法	(株)本間組
16	グレーチングストッパーSP	丸運建設(株)



8) 新技術登録申請相談コーナー

時 間： 9時00分～17時00分（会期中常設）
 会 場： 4階 会場前ロビー

新技術情報提供システム（NETIS）の概要及び登録・申請手続きの方法等を説明する相談コーナーを設け新技術登録のPRを図った。また、新技術情報提供システム（NETIS）登録技術対象とするパンフレット配布コーナーを併設した。

なお、パンフレットは配布希望を募り、希望のあった42技術の紹介パンフレットを配布した。

〈NETIS登録技術パンフレット配布 一覧表〉

No.	技術名	NETIS登録番号	出展者名
1	光ファイバを用いた河川堤体洗掘監視システム(OTDR方式)	HR-060033-A	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)
2	重錘式捨石均し工法(斜面对応型)	CGK-030001-A	(株)大本組
3	トータルリフトアップフォーム工法	KT-010231-A	(株)大本組
4	イージースラブ橋(H鋼桁床版橋)	HR-020028-A	(株)加賀田組
5	生物共生式護岸及び護岸パネル	TS-020003	鹿島建設(株)
6	サクセムPC橋梁	CB-050017-A	鹿島建設(株)
7	「エコマモール」	HR-050005-A	川田建設(株)
8	ジオステップ工法	HR-050004-A	川田建設(株)
9	川田の緑化システム「みどりちゃん」	HR-050006-A	川田建設(株)
10	AGF-WOO工法	HR-050012-A	(株)熊谷組
11	PAB工法(プラズマによる破碎技術)	KK-040024	(株)熊谷組
12	カドミ無&鉛無 溶融亜鉛めっき	HR-060027-A	シーケー金属(株)
13	電磁式流速・流向計	KK-010027-A	JFEアドバンテック(株)
14	高精度河川用超音波流量計	KK-050041-A	JFEアドバンテック(株)
15	コンクリート構造物の断面修復乾式吹付け工法	CB-020040-A	第一建設工業(株)
16	リラックスファルト	KT-060129-A	大成ロテック(株)
17	地山補強土『PAN WALL(パンウォール)工法』	CB-980093-A	(株)テクノサポート
18	タックファインE	KT-030043-A	東亜道路工業(株)
19	遮水型排水性舗装(POSMAC)	KT-040084-A	東亜道路工業(株)
20	ストリートプリント	KT-980120-A	(株)NIPPOコーポレーション
21	Tマックスシリーズ	QS-040001	日本道路(株)
22	箱型擁壁「フリー・キャスルウォール」	CB-040038	箱型擁壁協会
23	アクアマットRタイプ	CG-060001-A	早川ゴム(株)
24	アクアマットSタイプ	CG-060005-A	早川ゴム(株)
25	サンタックスパンシール誘発目地材	HR-990005-A	早川ゴム(株)
26	PC-壁体	KT-990077-A	PC-壁体工業会
27	キョーワ式フィルターユニットS型	CBK-040002-A	(株)不動テトラ
28	グラブ式異形ブロック撤去装置	HRK-040003-V	(株)不動テトラ
29	W/Cミータ	HR-990025-A	(社)北陸建設弘済会
30	ソイルセメント連続地中壁を利用した地中熱活用技術	HR-050025-A	(株)本間組
31	繊維グリッドのり面補強工	HR-060032-A	前田工織(株)
32	耐候性大型土のう「ツートンバッグ」	KT-060144-A	前田工織(株)
33	ジオロックウォール	HR-990009-A	前田工織(株)
34	盛土法面補強構造体(TOGA-WALL)	HR-990035-A	前田工織(株)
35	アダムウォール	KK-020061-A	前田工織(株)
36	グレーチングストッパー	HR-030035-A	丸運建設(株)
37	グレーチングストッパー SP	HR-050026-A	丸運建設(株)
38	FRP合成床版	CB-980002-A	(株)宮地鐵工所
39	SRC路盤材	HR-060006-A	(株)山隆組
40	ハイパワーロックフェンス工法(HRF工法)	HR-010009-A	(株)ライテク
41	ハイパワースノーフェンス工法(HSF工法)	HR-010010-A	(株)ライテク
42	イージーネット工法	HR-050024-A	(株)ライテク



3. 準備及び運営・設営

1) スケジュール

平成19年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会「平成19年度 建設技術報告会」運営スケジュール(実績)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
実行委員会等											
北陸地方建設事業推進協議会 運営委員会	●										
実行委員会		● 4/24(火)								● 12/19(水)	
協議・決定事項等		・運営要領(案)の協議・承認 ・実施計画(案)の協議・承認 ・予算(案)の協議・承認								・実施状況報告 ・決算報告	
報告技術募集及び原稿作成等											
ホームページ開設・運営			開設	● 論文・パネル展示・NETIS登録パンフ配布募集			● 聴講募集			● 開催結果	
報告技術募集・取りまとめ (主催機関)		4/25(水)		6/8(金)							
報告技術検討・選定				6/11(月)	6/21(木)						
採否通知				● 技術報告、パンフ配布 6/22(金)			● パネル展示 8/29(水)				
報告論文原稿作成・提出 (報告技術発表者)				6/25(月)			8/17(金)				
プレゼンデータ作成・提出 (報告技術発表者)				6/25(月)			8/31(金)				
パネル展示募集・取りまとめ (主催機関)		一次募集 4/25(水)		6/8(金)			二次募集 9/5				
NETIS登録技術パンフレット配布 募集・取りまとめ(事務局)		一次募集 4/25(水)		6/8(金)			二次募集 10/19(金)				
聴講募集(主催機関等)							9/11	10/19			
報告論文印刷								10/3	10/24		
その他											
記念講演者依頼・報道投込み							● 記念講演者選定及び依頼 8月下旬		● 報道関係への投げ込み 10/19		
報告会開催						● 開催延期決定 8/9(木)		● 当初予定 10/11(木)	● 11/1(木)		

2) 主な経緯

会議名等	実施日	会場	内容
平成19年度 北陸地方建設事業推進協議会運営委員会	平成19年3月下旬	—	建設技術報告会の開催承認
平成19年度「建設技術報告会」 第1回実行委員会	平成19年4月24日(火) 13時30分～15時00分	コープシティ花園 4階 ガレソンホール(a)	運営要領(案)の協議・承認 実施計画(案)の協議・承認 予算(案)の協議・承認
平成19年度「建設技術報告会」	平成19年11月1日(木) 9時20分～17時00分	チサンホテル&コンファレンスセンター新潟 4階 越後(東+西)	報告会開催
平成19年度「建設技術報告会」 第2回実行委員会	平成19年12月19日(水) 13時30分～15時00分	ウェルシティ新潟(新潟厚生年金会館) 2階 羽衣	実施結果報告 決算報告 次回の開催について

3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ 26 名（官：11 名、民：15 名）の協力により実施した。

〈運営体制表〉

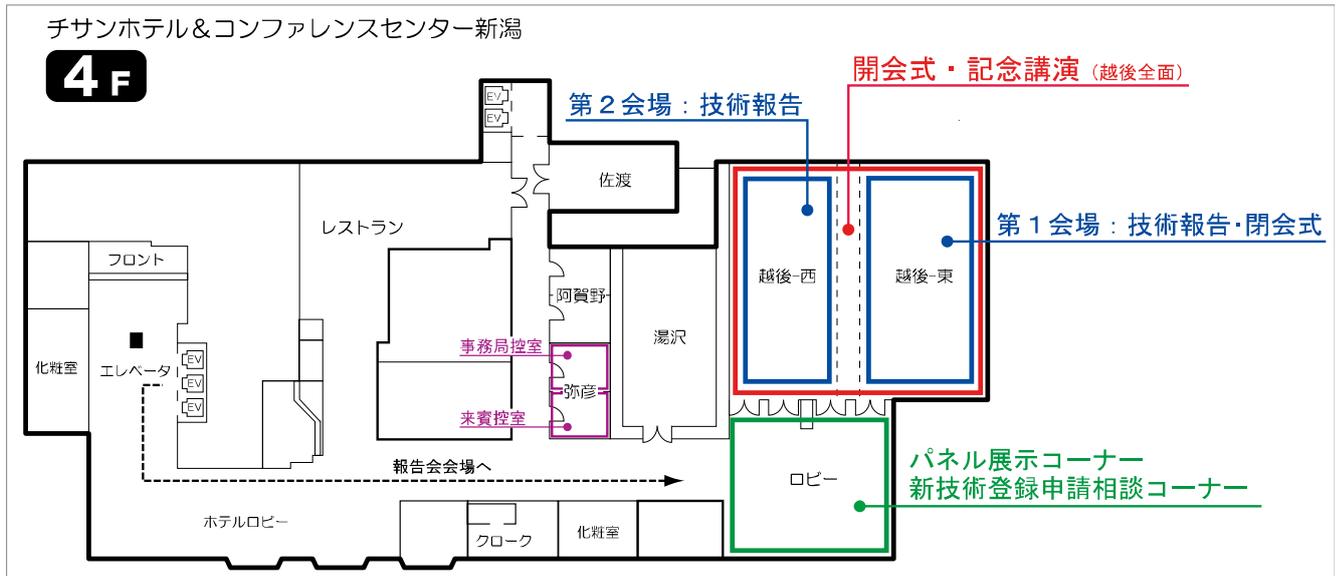
係名等	概略時間	員数	共通		第1会場	第2会場	備考
受付	9:00 ～10:15 記念講演 終了まで	12	新潟県 A 羽廣 重夫	新潟県 B 室岡 健			
			新潟市 A 上田 博史	新潟市 B 鈴木 豊実			
			(社)新潟県建設業協会 A 大関 真	(社)新潟県建設業協会 B 片野 実			
			(社)日本土木工業協会 A 佐藤 睦子	(社)日本土木工業協会 B 江口 美津江			
			(社)日本道路建設業協会 A 五十嵐 淳子	(社)日本道路建設業協会 B 滝沢 亜紀			
			(社)日本建設機械化協会 A 榎 紀洋	(社)日本建設機械化協会 B 上村 弘			
受付	10:20 ～16:41 報告会 終了まで	3	新潟県 A 羽廣 重夫	(社)日本土木工業協会 A 佐藤 睦子			
			(社)日本道路建設業協会 A 五十嵐 淳子	(社)日本土木工業協会 B 江口 美津江			
司会	開会式 記念講演司会	9:20 ～10:15			北陸技術事務所 上杉副所長		
	技術報告	10:35 ～16:41			施工企画課 大井施工企画課長補佐	海洋環境・技術課 東條海洋環境・技術課長補佐	
	閉会式	16:50 ～17:00			(社)日本土木工業協会 C 林 英輝	(社)日本道路建設業協会 B 滝沢 亜紀	
時間管理係	10:35 ～16:41	2			北陸技術事務所 上杉副所長		
パソコン係	10:35 ～16:41	2			新潟県 B 室岡 健	新潟市 A 上田 博史	
マイク受渡し係	10:35 ～16:41	2			北陸技術事務所 委託	新潟市 B 鈴木 豊実	
会場照明	10:35 ～16:41	2			(社)新潟県建設業協会 A 大関 真	(社)日本建設機械化協会 A 榎 紀洋	
写真係	10:35 ～16:41	2			(社)新潟県建設業協会 B 片野 実	(社)日本建設機械化協会 B 上村 弘	
新技術登録申請相談コーナー	終日		新潟港湾空港技術調査事務所 浦野技術開発第二係長	北陸技術事務所 田岡技術情報係長			
事務局	VIP案内	終日	1	施工企画課 宮村施工企画課長			橋場企画部長 岩田地方事業評価管理官
	マスコミ対応	終日	1	海洋環境・技術課 橋本海洋環境・技術課長補佐			
	連絡調整係	終日	1	北陸技術事務所 小泉 建設専門官			
	接遇係	午前のみ	1	北陸技術事務所 委託			
	写真係・全体 (開閉会・記念講演)	終日	1	1	施工企画課 施工係 吉原技官		

国土交通省 北陸地方整備局				実行委員会構成機関・団体								合計
企画課 施工企画課	港湾空港部 海洋環境・技術課	新潟港湾空港 技術事務所	北陸技術 事務所	新潟県	新潟市	新潟建協	土工協	道建協	機械協	埋没協		
3	2	1	5	2	2	2	3	2	2	2	26	



4) 会場設営

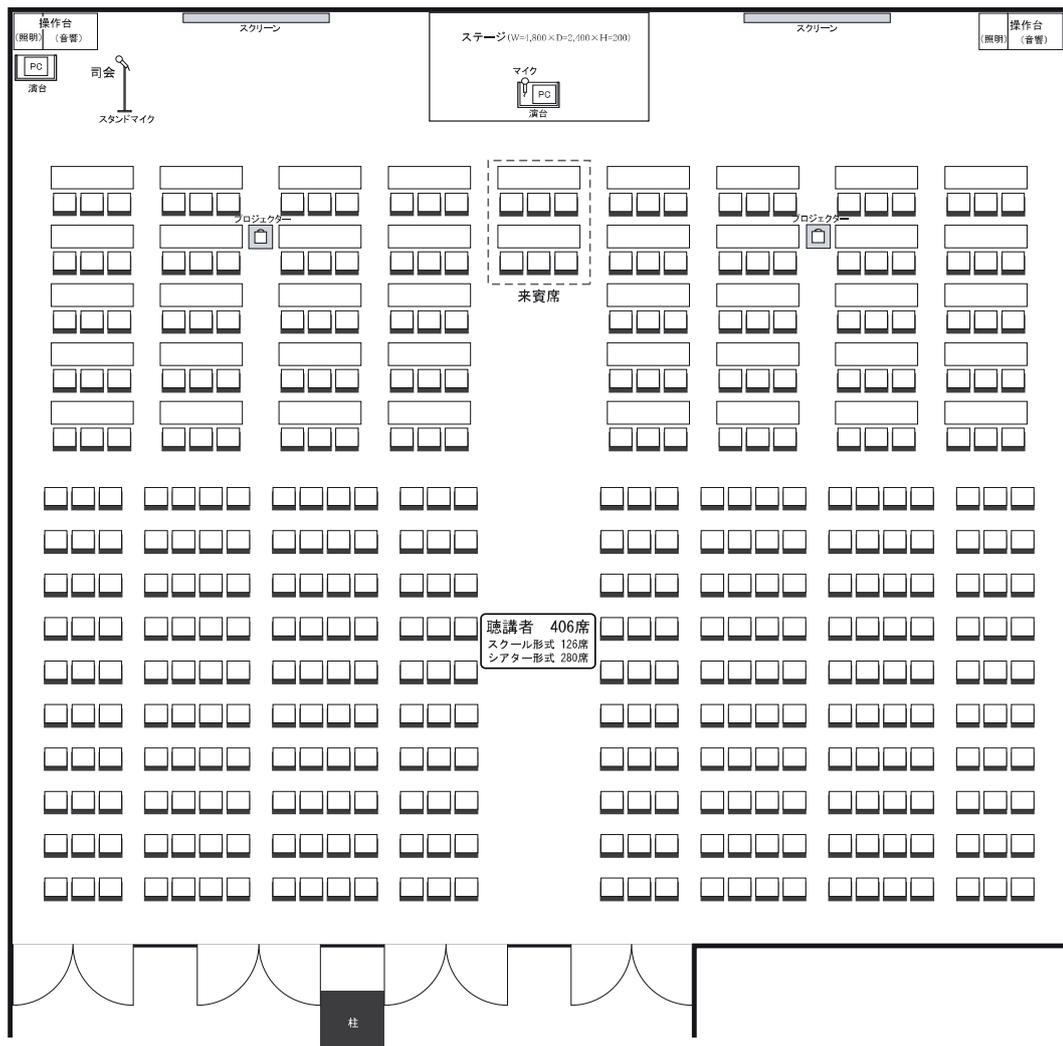
(1) フロア配置図



(2) 各会場配置図

■開会式・記念講演

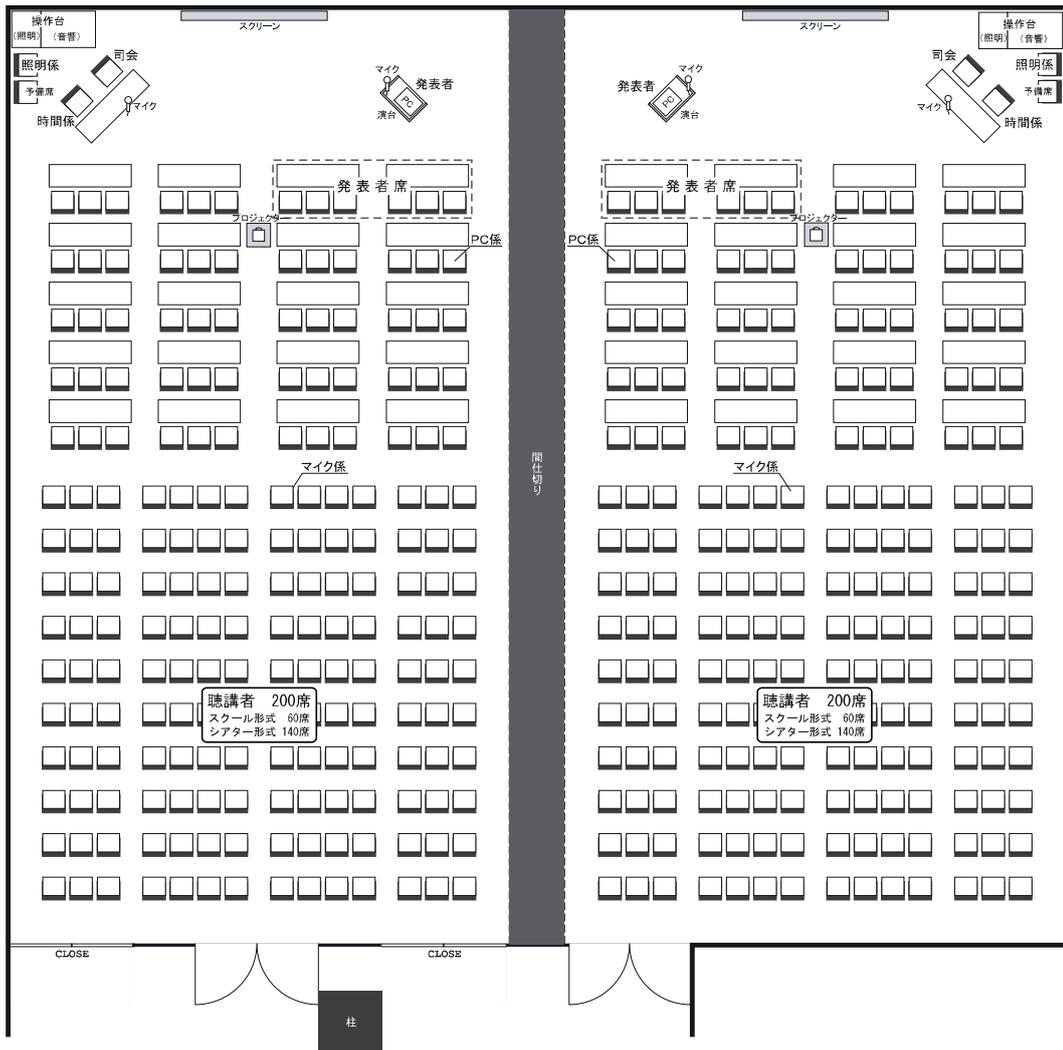
【越後 東+西】



■開会式・記念講演

第2会場【越後 西】

第1会場【越後 東】



開会・記念講演



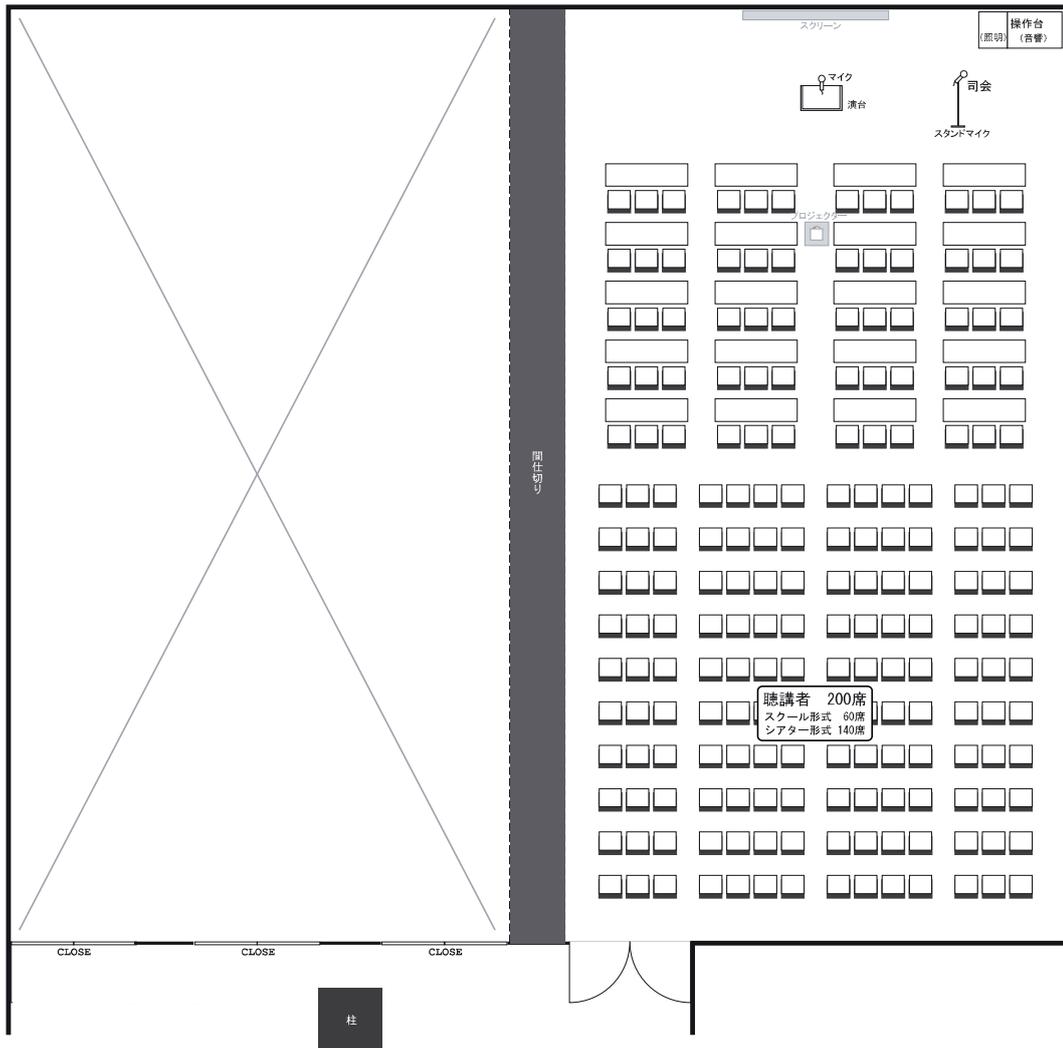
第1会場



第2会場

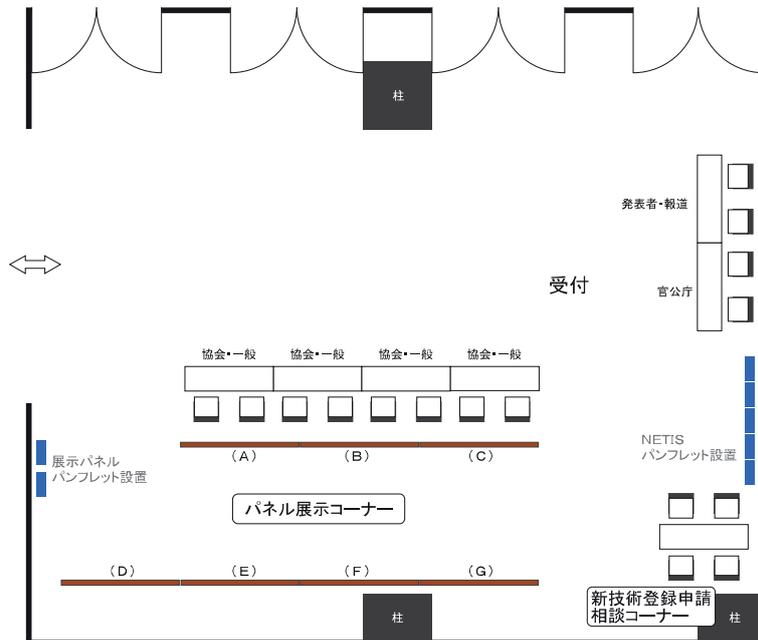
■閉会式

【越後 東】

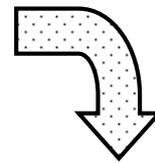


(2) 会場前ロビー配置図

■開会式・記念講演時



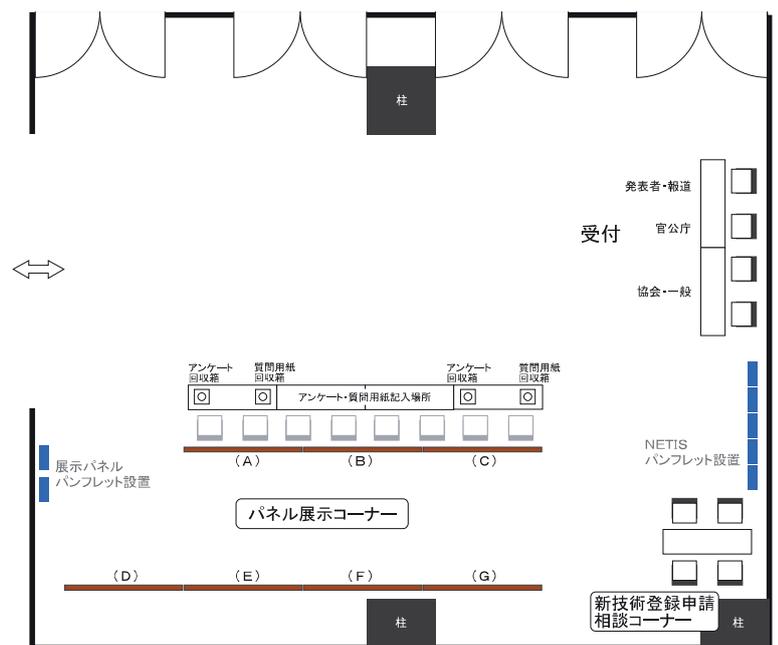
受付配置



■技術報告時



アンケート回収所配置



パネル展示



パネル展示



新技術登録申請相談コーナー

4. 広報

1) 広報活動

種別・内容	方法	時期	摘要	
チラシ配布	配布・募集	5月8日～	建設技術報告会実行委員会 主催機関・団体	
		9月11日～	主催機関・団体、市町村 建設関係団体等	
定期刊行誌	掲載依頼	9月号、10月号、12月号		
		6月号、9月号、12月号		
	ほっと*ほくりく	折込チラシ	9月号	フェアチラシ（一部掲載）
記者クラブ	投げ込み	10月19日	チラシ 開催概要	
				新潟県政記者クラブ
				富山県政記者クラブ 石川県政記者クラブ
建設専門紙	投げ込み	10月19日	チラシ 開催概要	
				日刊建設通信新聞社
				日本工業経済新聞社
				日刊建設工業新聞社
				北陸建設工業新聞社
				建設ジャーナル社 日刊建設産業新聞社
ホームページ	開設・運用	5月8日～（報告技術募集）		
		9月5日～（聴講募集） 11月12日～（開催結果） 適宜		
	北陸技術事務所 各主催機関・団体			

2) 広報掲載状況

(1) 新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成19年11月2日(金)
建設工業新聞	㈱北陸工業新聞社	平成19年11月2日(金)
新潟建設新聞	日本工業経済新聞社	平成19年11月3日(土)
建設通信新聞	㈱日刊建設通信新聞社	平成19年11月5日(月)
建設ジャーナル	㈱建設ジャーナル社	平成19年11月30日(金)

(2) 定期刊行誌

掲載誌	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	9月号、10月号、12月号
北技情報	国土交通省北陸技術事務所	6月号、9月号、12月号
ほっと*ほくりく	(社)北陸建設弘済会	9月号(フェアチラシに一部掲載)

(3) ホームページ

掲載機関	ホームページアドレス	掲載コンテンツ
国土交通省北陸技術事務所	http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/	トップコンテンツ(バナー)
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	http://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/	トップコンテンツ(バナー)
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	http://www.jcmanet.or.jp/hokuriku/	トップコンテンツ(バナー)
(社)富山県建設業協会	http://www.tomiken.or.jp/	新着情報

33件の研究成果発表

北陸地方推進協 新潟で建設技術報告会開く



『建設技術報告会』が1日新潟市で開かれ、写真、官民各界から33件の建設技術が報告された。地震災害や発火など、防災技術分野の発表が目立ち、安全安心な社会基盤の構築や社会資本ストックの

『建設技術報告会』が1日新潟市で開かれ、写真、官民各界から33件の建設技術が報告された。地震災害や発火など、防災技術分野の発表が目立ち、安全安心な社会基盤の構築や社会資本ストックの



北陸総局
〒951-8066
新潟市中央区東堀前通
一番町34番地2階
☎ 025-229-5411
FAX 025-229-5412
ホームページ
http://www.nikkkenko.com

長寿化と品質確保など、社会的要請に応える革新的な技術開発の取り組みの重要性が提起された。けんせつフェアの同時開催。目には、建設技術や機械を一堂に展示するフェアが、北陸地方整備局北陸技術事務所の特設会場で開催される。報告会は北陸地方建設事業推進協議会の主催。北陸各地から約400人が参加。会場には、06年8月から本格運用を開始した国土交通省の公共工事等の新技術活用システム（NETS）の相談コーナーも開設され、懇切な解説が行われていた。NETS活用し、即戦力となる新技術の開発と普及を、開会式では、主催者代表で北陸地方整備局の橋

新工法など33課題を発表

北陸建設協
建設技術報告会
新潟

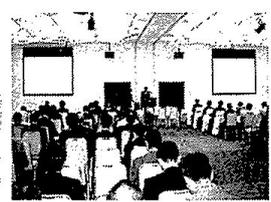
官民から約400人が参加した報告会 = 1日、新潟市内



北陸地方建設事業推進協議会（北陸地方整備局・富山県・石川各県・建設関連団体）で構成。1日、新潟市内の二地方事業評価管理官ホテルで「建設技術報告会」を開催。官民「けんせつ」をテーマに、新技術の活用に向けた研究開発された新技術「新工法」などの課題を、雲に強い地域づくりの良

の技術概要を発表した。この日は約400人が参加。富山県、建設研究員北陸地方整備局企画部長が「新技術が発表された。特に土木の現場では使えない状況がある。一方で昨年、公共工事における新技術活用促進システムが本格運用し、新技術への取組は総合評価の加算点になる。新技術活用へ、現場で使用するようなシステムの改訂などを検討している」と話した。

いもをまわす自然災害からの安全確保の環境のNETS登録・申請に関する相談コーナーが設けられた。政治や環境、防災に関する発表が、新潟市民病院、中心市街地の雨水貯留整備等について、採用された最新技術などを報告した。



北陸地方における建設事業を円滑に推進するため、新技術や新工法などを発表する建設技術報告会が1日、新潟市中央区のチサンホテル・新潟で開かれた。写真。北陸地方整備局、管内自治体などの官公庁、業団体で構成する北陸地方建設事業推進協議会の建設技術報告会実行委員会が1995年度から開催している報告会で、第12回目となる今年度は、民間企業を中心に33の新技術などが発表された。

新技術、工法33課題発表



北陸地方整備局、管内自治体などの官公庁、業団体で構成する北陸地方建設事業推進協議会の建設技術報告会実行委員会が1995年度から開催している報告会で、第12回目となる今年度は、民間企業を中心に33の新技術などが発表された。

現場活用促進へ建設技術報告会

開会あいさつで北陸地方整備局の橋本克司企画部長は「新技術を開発し、促進に努めていきたいとだけれども、なかなか現場で使ってもらえないと、皆さんも、引き続き新技術の活用に取り組んでほしい」と要請した。当日は若田英二北陸地方整備局地方事業評価管理官が「新技術の活用に向けて」をテーマに基調講演、民間企業の28人、北陸地方整備局と新潟市の各2人、新潟県の1人、また、この報告会が北陸地方への適用性新技術の開発・普及を目的としている。われわれ新工法を発表した。

新技術・新工法普及へ

33の建設技術を報告



橋場企画部長

建設分野の新技術・新工法の普及を目指して。北陸地方建設事業推進協議会建設技術報告会実行委員会の主催による建設技術報告会が1日、新潟市内で開催され、官公庁および建設企業の関係者ら約430人が参加した。開会后、挨拶に立った北陸地方整備局の橋場克司・企画部長は、平成7年度以来今回で12回目を迎える建設技術報告会が、新技術・新工法、創意工夫を官公庁および民間の



岩田地方事業評価管理官

建設分野の技術開発に携わる技術者へ広く紹介、普及へ結びつけるのも大きな目的を示しながらも、新しい技術を開発しても実際使用されていない状況にあると、報告。国交省では、昨年からの民間等が開発された新技術の活用促進を目的に公共工事における



官民関係者約430人が参加（1日、チサンホテル）

ことを強調。「今後も新しい技術の開発に取り組みたい」と、異なる期待を寄せた。引き続き、同局の岩田英二・地方事業評価管理官が「新技術の活用に向けて」を演題とする基調講演。建設分野が直面する課題を示し、目指すべき方向として、民間などの分野における技術開発の促進によって、優れた新しい技術が輩出され、社会に還元されるよう仕組みを確立することが重要であるとし、改めて新技術の役割と位置付け、新技術活用の狙い、新技術活用システムの必要性、構築方法を説明した。さらに、新技術の普及に

- は、国と地方自治体など、価値観の精査により安心の取り組みとの連携および採用できる環境整備の融合、設計段階への取組をあげた。今回の建設技術報告会
- 報告した建設企業は次のとおり。
- ▽(株)不動テトラ▽佐藤工業(株)▽(株)興村組▽大成建設(株)▽(株)大本組▽(株)本間組▽(株)佐藤渡辺▽(株)NIPPONコーポレーション
 - ▽福田道路(株)▽世紀東急工業(株)▽鹿島建設(株)▽(株)熊谷組▽(株)福田組▽大成ロテック(株)▽(株)加賀田組▽(株)アドヴァンス▽オリエンタル建設(株)▽鉄建建設(株)▽(株)ガイアT・K▽鹿島道路(株)▽東亜道路工業(株)▽日本道路(株)▽(株)興和▽エヌシー(株)▽藤村ヒューム管

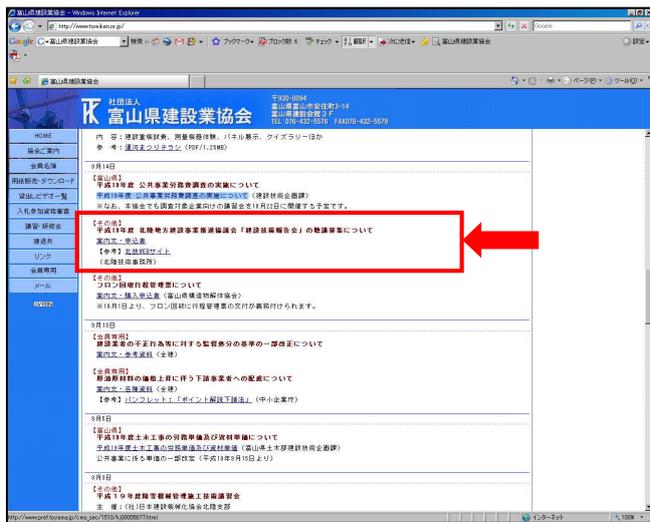
ほっと*ほくりく (北陸建設弘済会)

9月号



■ホームページ

(社)富山県建設業協会



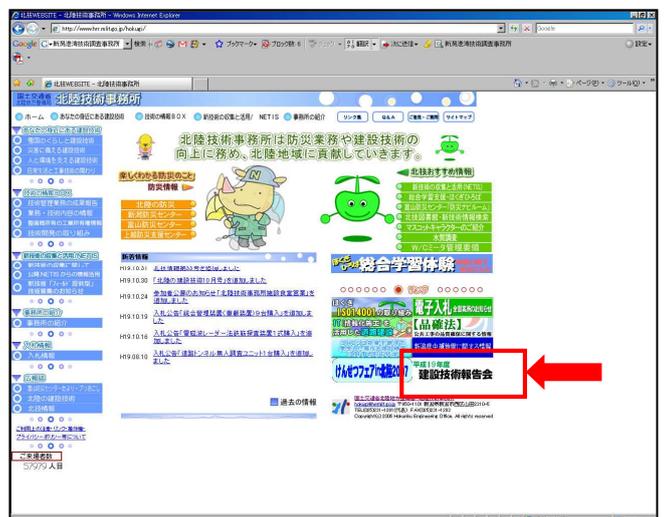
(社)日本建設機械化協会 北陸支部



国土交通省 新潟港湾空港技術調査事務所



国土交通省 北陸技術事務所



■ 広報・製作物等
チラシ A4判

(報告技術募集用)

平成19年度 建設分野の新技术・新工法の報告会

建設技術報告会

開催日 平成19年 10/11(木)

会場 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ)

報告技術募集中

スケジュール

- 開会 メインホール (B) (第1会場) 定員400名
- 記念講演 メインホール (B) (第1会場) 定員400名
- 技術報告 メインホール (B) (第1会場) 定員400名
- 中会議室201 (a) (第2会場) 定員200名
- 中会議室201 (b) (第3会場) 定員200名
- 閉会 メインホール (B) (第1会場) 定員400名

主催：北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会

北陸地方事務所／新潟県／沼川町／石川町／新潟市
 東日本高速道路新潟県支社／中日本高速道路新潟県支社
 (財)日本土木工業協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)建設コンサルタント協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会／(財)石川建設業協会
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会
 北陸上米コンクリート製品技術協議会
 北陸FPC技術協議会／新潟県産物技術協議会
 (財)新潟建設技術センター／新潟県建設業協会
 (財)日本建設機械化協会北陸支部／(財)北陸建設協会

北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会
 事務局：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
 ホームページアドレス <http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/>

(広報用)

平成19年度 建設分野の新技术・新工法の報告会

建設技術報告会

開催日 平成19年 10/11(木)

会場 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ)

聴講無料

スケジュール

- 受付 19時00分～
- 開会式 19時20分～19時30分
- 記念講演 19時30分～10時30分
- 技術報告 10時40分～16時30分
- 第1会場 メインホールB
- 第2会場 中会議室 201 (a)
- 第3会場 中会議室 201 (b)
- 閉会式 16時40分～16時50分

主催：北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会

北陸地方事務所／新潟県／沼川町／石川町／新潟市
 東日本高速道路新潟県支社／中日本高速道路新潟県支社
 (財)日本土木工業協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)建設コンサルタント協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会／(財)石川建設業協会
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会
 北陸上米コンクリート製品技術協議会
 北陸FPC技術協議会／新潟県産物技術協議会
 (財)新潟建設技術センター／新潟県建設業協会
 (財)日本建設機械化協会北陸支部／(財)北陸建設協会

北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会
 事務局：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
 ホームページアドレス <http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/>

(聴講募集用)

平成19年度 建設分野の新技术・新工法の報告会

建設技術報告会

開催日 平成19年 11/1(木)

会場 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

聴講者募集中

スケジュール

- 受付 19時00分～
- 開会式 19時20分～19時30分 越後(東+西)
- 記念講演 19時30分～10時15分 越後(東+西)
- 技術報告 10時35分～16時41分
- 第1会場 越後(東)
- 第2会場 越後(西)
- 閉会式 16時50分～17時00分

聴講無料

主催：北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会

北陸地方事務所／新潟県／沼川町／石川町／新潟市
 東日本高速道路新潟県支社／中日本高速道路新潟県支社
 (財)日本土木工業協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)建設コンサルタント協会北陸支部／(財)日本建設機械化協会北陸支部
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会／(財)石川建設業協会
 (財)新潟建設業協会／(財)新潟建設業協会
 北陸上米コンクリート製品技術協議会
 北陸FPC技術協議会／新潟県産物技術協議会
 (財)新潟建設技術センター／新潟県建設業協会
 (財)日本建設機械化協会北陸支部／(財)北陸建設協会

北陸地方建設事業推進協議会 平成19年度「建設技術報告会」実行委員会
 事務局：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
 ホームページアドレス <http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/>

報文集 A4判 (モノクロ) 148頁

平成19年度
建設技術報告会報文集

平成19年11月

北陸地方建設事業推進協議会
建設技術報告会実行委員会

5. アンケート

次回以降の開催の参考とするため、聴講者を対象にアンケート調査を実施した。

1) 設問内容

(オモテ面)

北陸地方建設事業推進協議会
「平成19年度建設技術報告会」アンケート

建設技術報告会にご参加頂き誠に有り難うございます。
今後の参考とさせていただきます。アンケート調査にご協力下さい。
※回答は、記述式の設問以外は該当する記号を○で囲んでください。

問1.
①あなたの職業・職種は。 A. 国土交通省 B. 県 C. 市町村
D. 公団 E. A～Dに属さない官公庁(機関名:)
F. 建設関連の会社(技術職) G. 建設関連の会社(事務職)
H. 建設関連の協会・団体 I. その他()

②あなたは主にどの分野のお仕事に携わっていますか。
A. 河川 B. 道路 C. 砂防 D. 港湾空港 E. 管轄
F. 上下水道 G. 共通() H. その他()

③どちらから来られましたか。 A. 新潟市内 B. 新潟市を除く新潟県内()
C. 富山県 D. 石川県 E. その他()

④この報告会を何で知りましたか。
A. 協会・団体からの案内 B. ホームページ C. チラシ
D. 国土交通省・県からの案内 E. くちこみ
F. その他()

問2.
①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか。
A. 必要性を感じる B. 多少感じるが急務の問題ではない C. 特に問題意識はない

②上記①で「イ、必要性を感じる」または「ロ、多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方はどの分野に必要性を感じますか(複数回答可)。
A. 雪に強い地盤づくり・・・「雪害対策技術」、「冬期道路交通の安全確保」等
B. 良いものを安く・・・「コスト削減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等
C. 自然災害からの安全確保・・・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」、「危機管理技術」等
D. 環境の保全と創造・・・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「環境整備技術」等
E. ゆとりと福祉・・・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等
F. その他()

③新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何ですか。
A. 経費的なもの B. 積算体系等制度的なもの C. 新技術に関する情報不足(工法選定 etc)
D. その他()

問3.
今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術を3題選んでご記入下さい。
1. 報告技術名()
会社名()
2. 報告技術名()
会社名()
3. 報告技術名()
会社名()

(裏面に続きます)

(ウラ面)

問4.
①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか。
A. 思う B. 思わない C. 内容による

②上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。

③開催時期はいつが良いと思いますか。
A. 今の時期が良い B. その他()月頃)

④開催地はどこが良いと思いますか。
A. 今回の開催地で良い B. 新潟県、富山県、石川県で順番に開催 C. その他()

⑤報告技術1題あたりの発表時間についてお聞かせ下さい。
A. 長い B. 適当 C. 短い

⑥上記⑤で「A. 長い」または「C. 短い」に○をされた方は適当と思われる時間をご記入下さい。
概ね 分/1題

問5.
①今回、記念講演をお聞きになって感じたこと等、意見をお聞かせ下さい。

②今後もこのような記念講演があった方が良いと思いますか。
A. 思う B. 思わない C. 内容による

③上記②で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。

問6.
この報告会の報告形式や会場設置についてご意見がありましたらご記入下さい。

問7.
パネル展示、NETIS登録技術パンフレット配布についてお伺いします。
①今後も新技術を紹介するパネル展示があった方が良いと思いますか。
A. 思う B. 思わない C. 内容による

②今後もNETISに登録されている技術パンフレットの配布を行った方が良いと思いますか。
A. 思う B. 思わない C. 内容による

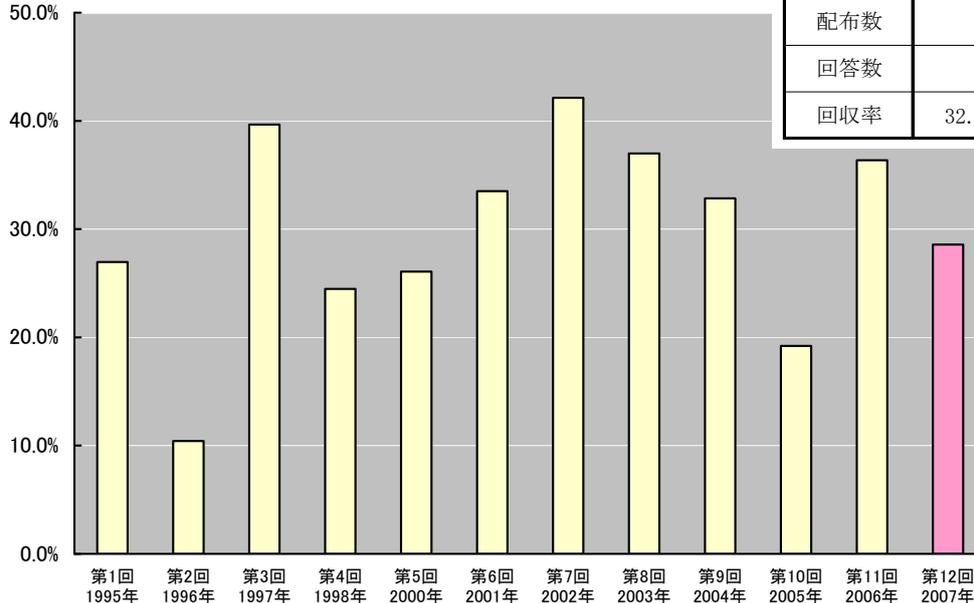
問8.
その他、この報告会について感じたことがありましたらご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。この用紙は各会場前に設置していますアンケート回収箱に投函願います。
「平成19年度建設技術報告会」実行委員会

2) 配布・回収

アンケートは受付時に報文集と共に聴講者に配布し、ロビーに設置した回収箱により回収を行った。なお、アンケート回収率は以下のとおりである。

〈アンケート回収率の推移〉



	官公庁	民間	計
配布数	76	302	378
回答数	25	83	108
回収率	32.9%	27.5%	28.6%

3) アンケート結果概要

■回答者の職業及び分野(問1 ①及び② 参照)

職種別では、約2割が官公庁、約8割が民間企業であった。

分野別では、道路分野に携わっている人が全体の約半分を占め、続いて河川が1割であった。

■回答者の住所・勤務地等(問1 ⑤ 参照)

新潟市内が全体の65%を占めた。これは開催地が新潟市であること、また本年度より、政令指定都市となった新潟市が新たに実行委員に加わった事も要因であると思われる。続いて新潟市以外の新潟県内市町村が1割を示した。

■新技術の導入及び分野(問2 ①及び② 参照)

「必要性を感じる」、「多少感じるが急務の問題ではない」を合わせて9割を超える人が必要性を感じており、新技術への関心の高さを示している。

また、必要性を感じる分野では、「良いものを安く」、「環境の保全と創造」を合わせて全体の6割を占めている。これは品確法の施行、コスト縮減や環境負荷の低減といった施策を受けて、ニーズに応えられる分野の技術開発が必要と考えていることが推測される。

■新技術導入の障害(問2 ③ 参照)

全体の約4割弱が「経費的なもの」、続いて「積算体系等制度的なもの」が約3割を占めた。

全体の約1割の少数意見には、発注者側の意識・インセンティブの乏しさや実績重視等の体制を指摘する厳しい意見や、導入する新技術の有効性・信頼性を懸念する意見が上がった。

■今後の報告会(問4 ①及び② 参照)

今後も報告会の開催を続けた方が良いとする意見が、全体の8割を占め、「内容による」と答えた人が1割であった。内容によると答えた人の意見として、「新技術を採用しやすい事例」や「新技術にこだわらないテーマ」を望むといったものが上げられた。

■開催時期(問4 ③ 参照)

全体の約7割が、今回の開催時期が良いと回答している。その他の時期では9月(6%)、続いて5月(4%)を望む意見があった。

■開催地(問4 ④ 参照)

全体の65%が、今回の開催地で良いとしているが、回答者の殆どが新潟市内からの聴講者であり、問1の③の回答がそのまま反映された結果となった。これは、会場までの移動時間等を考慮すると、参加しやすい地元での開催を望む当然の結果であるといえる。

新潟・富山・石川で輪番の開催を望む回答が、約3割弱であった。

※『けんせつフェア』等の開催場所にもよるが、基本的には輪番で開催している。

■報告技術1題あたりの発表時間(問4 ⑤及び⑥ 参照)

全体の約8割が、今回の発表時間は適当と回答している。また、長いと感じた人が適当と思う時間は10～15分、短いと感じた人が適当と思う時間は20～30分であった。

■記念講演(問5 ①及び②、③ 参照)

本講演でNETISに対する理解が深まったという内容の感想が多かったが、「講演時間が短く、説明不足」、「特に新しい話ではなかった」という意見もあった。

また、今後も記念講演の継続を望むという回答が全体の6割を占め、「思わない」「内容による」と答えた人が合わせて1割強であった。思わない、内容による理由として「技術報告に充てた方がよい」、「学識者や建設業界外の人から建設事業に対する意見等を講演してもらいたい」といった意見が上げられた。

■報告会形式や会場設営など(問6 参照)

発表時間に質疑応答時間を含めていたためか、「質疑応答時間を別に設けた方が良い」という意見があった。

発表部門の偏りや「パネル展示スペースが独立している」、「見にくい」との指摘や、パネル展示やパンフレット配置の工夫を望む意見が上げられた。

■パネル展示・NETIS登録技術パンフレットの配布(問7 ①及び② 参照)

新技術を紹介するパネル展示やNETIS登録されている技術のパンフレット配布を今後も続けた方が良いとする回答が7割近くを占めた。これは、パネルやパンフレットが新技術情報の貴重な収集源の一つとして役割を担っているといえる。

■その他(問8 参照)

発注者の聴講や報告が増えることを望む意見があった。

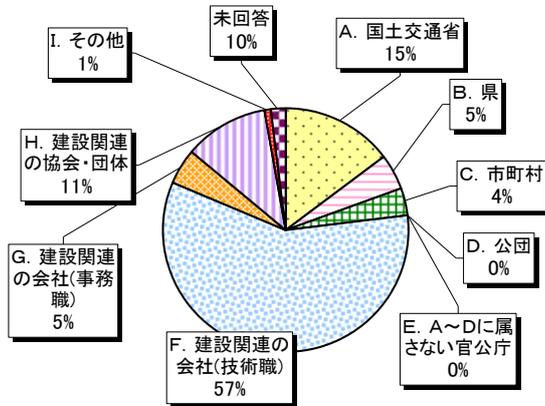
二会場形式であったことや公共交通機関の至便な会場で良いと評価する意見がある反面、車社会を反映して駐車場の少なさを指摘する意見も上がった。

4) 設問別集計結果

各設問の集計結果は以下のとおりである。

問 1

①あなたの職業・職種は。

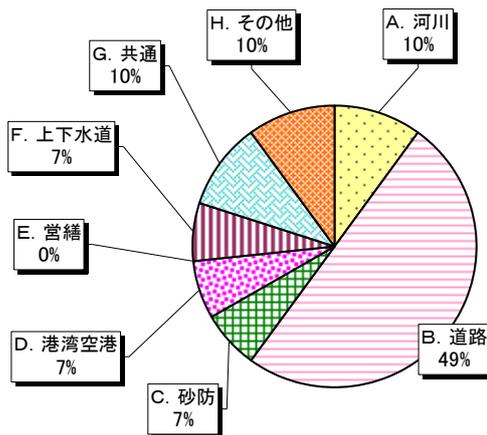


A. 国土交通省	16
B. 県	5
C. 市町村	4
D. 公団	0
E. A~Dに属さない官公庁	0
F. 建設関連の会社(技術職)	63
G. 建設関連の会社(事務職)	5
H. 建設関連の協会・団体	12
I. その他	1
未回答	2
計	108

その他

・コンクリート製品メーカー(1)

②あなたは主にどの分野のお仕事に携わっていますか。



A. 河川	12
B. 道路	60
C. 砂防	8
D. 港湾空港	8
E. 営繕	0
F. 上下水道	8
G. 共通	12
H. その他	12
計	120

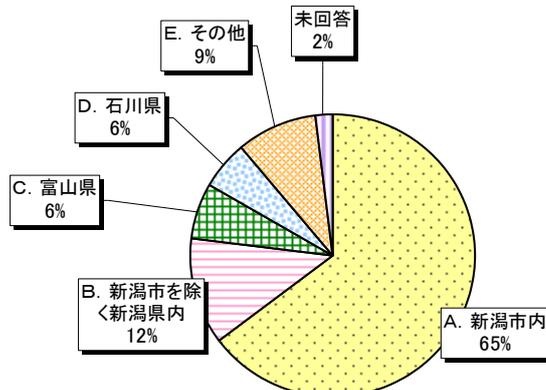
共通

・機械 (1) ・管理 (1)
 ・営業 (1) ・すべて (1)
 ・未回答 (8)

その他

・橋梁 (1) ・電気 (1)
 ・新技術 (1) ・補修 (1)
 ・鉄鋼関係 (1) ・資料作成 (1)
 ・全体 (1) ・地震防災 (1)
 ・未回答 (4)

③どちらから来られましたか。



A. 新潟市内	70
B. 新潟市を除く新潟県内	13
C. 富山県	7
D. 石川県	6
E. その他	10
未回答	2
計	108

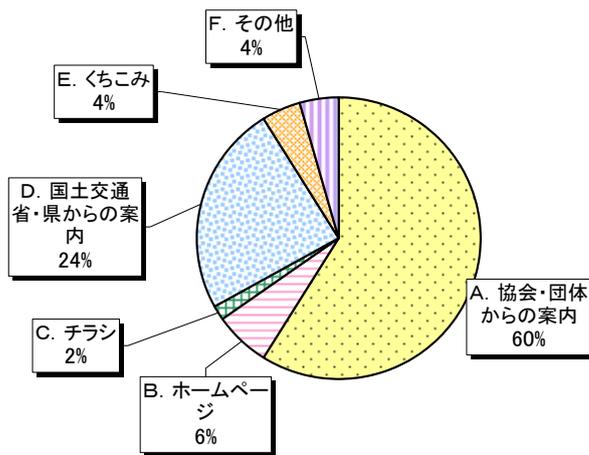
新潟市を除く新潟県内

・長岡市 (1) ・村上市 (1)
 ・胎内市 (1) ・小千谷市 (1)
 ・糸魚川市 (1) ・未回答 (8)

その他

・東京都 (1) ・千葉県 (1)
 ・神奈川県 (1) ・愛知県 (1)
 ・岡山県 (2) ・未回答 (4)

④この報告会を何で知りましたか。



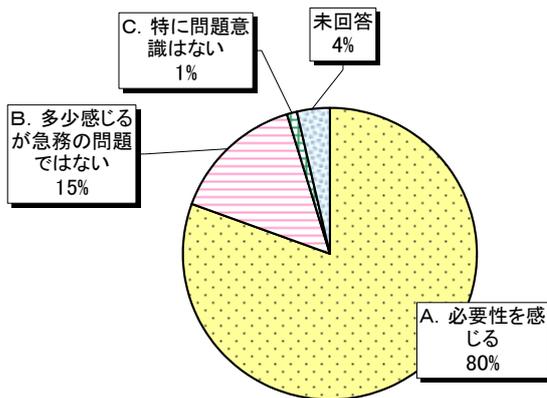
A. 協会・団体からの案内	66
B. ホームページ	7
C. チラシ	2
D. 国土交通省・県からの案内	27
E. くちこみ	5
F. その他	5
計	112

その他

- ・会社（2）
- ・新聞報道（1）
- ・発表者から案内（1）
- ・未回答（1）

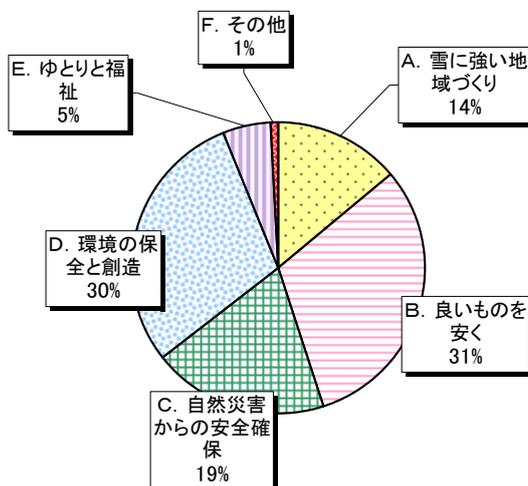
問2

①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか。



A. 必要性を感じる	87
B. 多少感じるが急務の問題ではない	16
C. 特に問題意識はない	1
未回答	4
計	108

②上記①で「A. 必要性を感じる」または「B. 多少感じるが急務の問題ではない」に○を付けた方はどの分野に必要性を感じますか？（複数回答可）

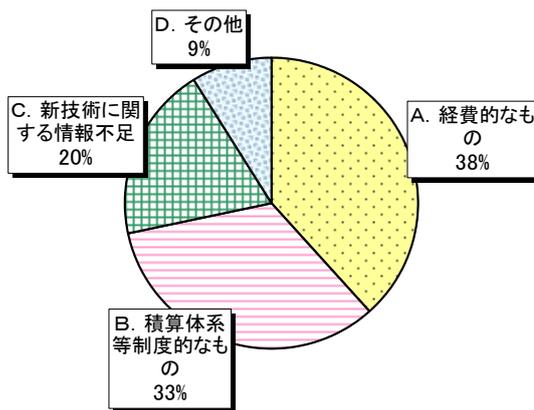


A. 雪に強い地域づくり	30
B. 良いものを安く	67
C. 自然災害からの安全確保	42
D. 環境の保全と創造	64
E. ゆとりと福祉	11
F. その他	2
計	216

その他

- ・維持・修繕（1）
- ・既存施設の延命化技術（1）

③新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何ですか。（複数回答可能）



A. 経費的なもの	47
B. 積算体系等制度的なもの	41
C. 新技術に関する情報不足	24
D. その他	11
計	123

「D. その他」の内容

- ・実績がなければ使用することをためらう体制にも問題があるが、利点だけが強調されて不合理な部分が見えないので使用に不安がある。（1）
- ・手続きが煩雑。（1）
- ・発注者の強い意欲（インセンティブ）。工法の指定をすべき。（1）
- ・役所の担当者の考え方が前向きでない。（1）
- ・発注者側のサポートが不可欠。（1）
- ・耐久性等、技術の信頼性に対する担保。（1）
- ・果たして、その新技術が有効に機能するのか疑問が残る。（1）
- ・かけた経費や時間に対するインセンティブがあまりに少なすぎる。企業の厳しさを理解できていない。（1）
- ・全ての役割分担について、新技術導入まで時間と経費がかかる。（1）
- ・NETISが検索しづらい。（1）
- ・新技術に対する発注者側の意識が薄い。イニシャルコストが高くてもトータルコストが安いものが多いが、イニシャルコスト比較優先される。（1）

問3

今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術を3題選んでご記入下さい。

第1位・・・11票(8.8%)

『災害用トイレの開発』

(北陸地方整備局 北陸技術事務所)

第2位・・・10票(8.0%)

『空気を熱媒とする路面融雪装置ACCESSの開発』

(株式会社興和)

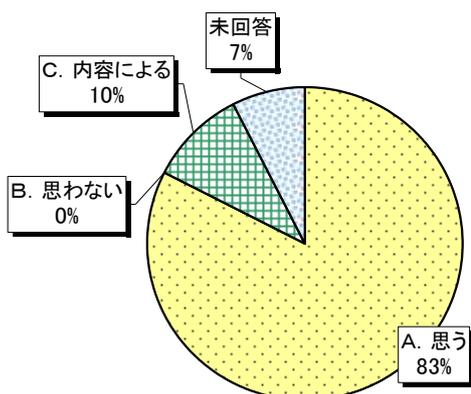
第3位・・・9票(7.2%)

『プラズマ岩盤破碎技術(PAB工法)』

(株式会社熊谷組)

問 4

①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか。



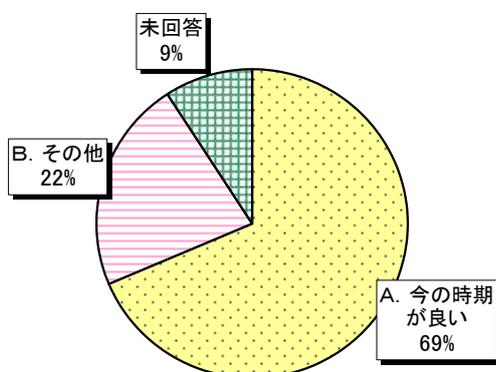
A. 思う	89
B. 思わない	0
C. 内容による	11
未回答	8
計	108

②上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○を付けた方はどのような内容を望まれますか？

■「C. 内容による」に○を付けた方

- ・ 広く浅い分野の感があるので、やるなら浮いた発表がないように4~5会場になる位の規模が良い。(1)
- ・ 新技術を採用しやすい事例がほしい→発注者が新技術に見合う費用を出しやすい。(1)
- ・ 報告会はあった方が良いが、新技術にこだわらず、コスト縮減などでも良いと思う。(1)
- ・ 未回答(8)

③開催時期はいつが良いと思いますか。

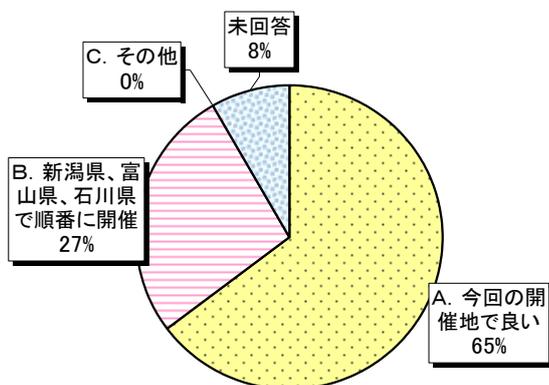


A. 今の時期が良い	74
B. その他	24
未回答	10
計	108

その他

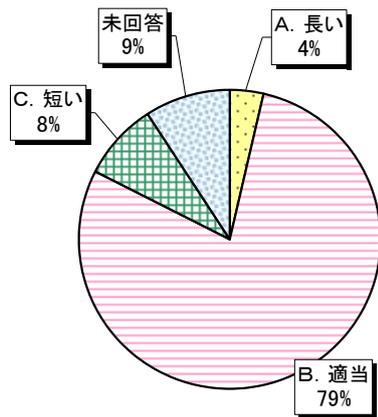
- ・ 1月(2) ・ 4月~5月(1)
- ・ 5月(4) ・ 5月~6月(1)
- ・ 6月(2) ・ 8月(1)
- ・ 9月(6) ・ 9月~10月(2)
- ・ 10月(3)
- ・ 冬期間(1)
- ・ 日本道路会議開催日と別日程(1)

④開催地についてどのようにお考えですか。



A. 今回の開催地で良い	70
B. 新潟県、富山県、石川県で順番に開催	29
C. その他	0
未回答	9
計	108

⑤報告技術1題あたりの発表時間についてお聞かせ下さい。



A. 長い	4
B. 適当	85
C. 短い	9
未回答	10
計	108

⑥上記⑤で「A. 長い」または「C. 短い」に○をされた方は適当と思われる時間をご記入下さい。

■ 「A. 長い」に○をされた方

- ・ 10分 (1)
- ・ 12分 (1)
- ・ 15分 (1)
- ・ 未回答 (1)

■ 「C. 短い」に○をされた方

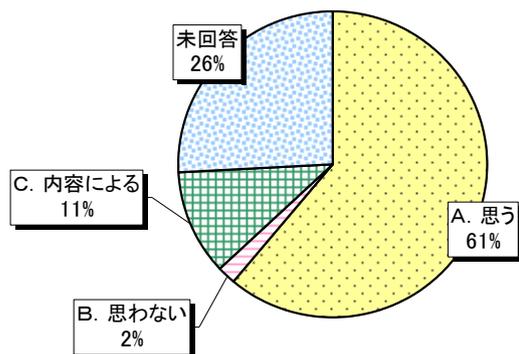
- ・ 20分 (5)
※20分の内、「質問時間は別に」 (1), 「質問はその場で」 (1)
- ・ 25分 (1)
- ・ 30分 (2)
- ・ 未回答 (1)

問5

①今回、記念講演をお聞きになって感じたこと等、意見をお聞かせ下さい。

回答内容	回答数(内訳)
<p>■講演内容および講演時間に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強になった。 ・普段聞けない話でとても参考になりました。 ・新技術普及のための話を聞いて良かった。外部の方からの講演を聞きたい。 ・参加して多くの知識を得られ良かった。 ・NETISの現状が聞いて良かった。 ・NETIS推進の必要性が非常に感じられました。 ・判り易く、NETISの概要が把握出来て良かった。 ・NETISと総合評価の関係が分かり、良かった。 ・新技術(NETIS)の存在は知っていたが、活用方法等が不明確であった。今回の講演で理解が進んだ。NETISについてもっとPRが必要だと思う。 ・官の取り組み姿勢(意欲)が伝わりました。その中で、インセンティブの付与をより大きくすべきと思いました。 ・新技術活用を本気で前向きに取り組んでいる感が伝わった。 ・新技術活用への取り組みや今後の課題等が分かりやすく伝わってきました。新技術を埋もれさせないためにも、適用性を判断、活用、効果の実証を進める必要性を感じました。 ・話が堅すぎる。 ・簡易型以外のNETIS利用の促進について知りたかった。(現状では簡易以外は提案されていない工事が多いため。) ・「国交省もガンバルから開発者・施工者もガンバってほしい」というような希望が持てる言い方があればもっと良かった。 ・特に新しい話ではなかった。 ・時間が短い。 ・もっと詳しく説明してほしい、時間が不足していたのではないか。 ・遠方から来たので時間的に聞けなかった。 	<p>2 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (不明)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>2 (民間)</p>
<p>■新技術活用に向けて感じる課題に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術開発の重要性。 ・新技術の積極的活用。 ・新技術の活用をうまくしないとダメ。 ・新技術の導入には、官・民両者の意識・制度の向上が必要。 ・新技術開発にはコストがかかる。活用するための導入策が必要。 ・公共事業が縮減されている中で、新技術の開発意欲や導入の低下が懸念される。 ・新技術をはじめ、技術革新を急がないと建設産業が置き去りになる。他の業界は鎬を削っている、目を覚ますべき。 ・新技術の活用に向けて、NETIS登録を行うと共に登録された技術の採用が必要であり、施工の省力化、効率化に努め、社会資本整備を進めて行う事が課題である。 	<p>1 (民間)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p>
<p>■要望に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとPRして多くの関係者が参加できるようにお願いします。 ・大変良いと思う。新技術の採用時期にあたっては、発注者の積算(担当者で決まる)に反映(変更)できるよう工務課へ指導していただきたい。 ・業者が開発にかけたコストを回収できるようもっと発注して下さい。 	<p>1 (官公庁)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (民間)</p>

②今後もこのような記念講演があった方が良いと思いますか。



A. 思う	66
B. 思わない	2
C. 内容による	12
未回答	28
計	108

③上記②で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。

■「B. 思わない」に○をされた方

- ・技術報告を充実した方が良いと思うから。(報告をもっと多くした方が良い。)(1)
- ・記念講演の時間を発表時間とする。(1)

■「C. 内容による」に○をされた方

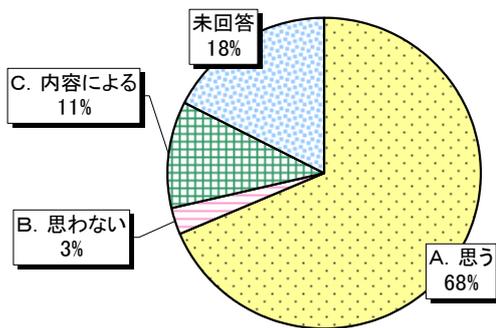
- ・興味深い内容。(1)
- ・今日のような時事に見合った内容を望む。(1)
- ・講師の方がもう少し勉強して話されたら良かったと思います。(1)
- ・学識者による講演の方が良いように思います。(1)
- ・外部の話題が良いのでは?(1)
- ・建設以外の人からの建設事業に対する意見・要望等を講演されてはどうか。(1)
- ・未回答(6)

問6. この報告会の報告形式や会場設営などについての意見

回答内容	回答数(内訳)
<p>■報告時間・質疑応答時間に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で説明できるのも技術です。 ・全体の時間スケジュールのためでしょうか、もう少し1報告当たりの時間があつた方が良いと思いました。 ・質疑応答時間をきちんと設けた方が良いと思います。 ・質問時間が少ない。 ・一人の持ち時間が18分であるが、発表15分、質問12分、移動1分と分けた方が良い。18分発表してしまうと質問時間がなくなってしまう。質問用紙はあるけれど、発表の後にすぐ質問の方が良い。 ・質疑は報告終了毎にしてもらいたい。 ・司会が曖昧。質問時間を3分でもとった方が良い。 	<p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■報告形式に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1題あたりの発表時間は適当だと思うが、ベルが3つ鳴っても説明をやめない講師がいるが、どうかと思う。ベルが3つ鳴ったら説明は打切るべし。何のためのベルか疑問だ！ ・過去に実施されていた聴講を自由に選択し、会場を移動する方式が良い。 ・会場移動した場合、目的報告がすでに始まってしまっていたりしました。そのあたりの調整をお願いします。 ・休憩時間を多くして好みの報告を見たい。 ・司会の方から1~2の質問を作り、意見を聞いた方が良いのでは。 	<p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■報告内容に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施工費が知りたかった。(単価あたりの金額でも構わない。) ・報告会で発表した新工法などの工事費を記載してほしい。 ・発表部門が偏っている。 ・工事報告的なものは本会にそぐわないように思いました。 	<p>1 (官公庁)</p> <p>1 (協会・団体)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■パネル展示に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示やポスターセッションは良いと思う、増やして欲しい。 ・パネルスペースが独立しすぎている、通路を利用した方が良いのでは。 ・見にくい、パネル展示方法にもっと工夫を。 ・パネル展示のパンフレットはパネルと同位置に置かれた方が、レスポンスに技術的情報が収集できるのでは。 	<p>1 (官公庁)</p> <p>2 (民間)</p> <p>2 (官公庁)</p> <p>2 (民間: 1, 協会・団体: 1)</p>
<p>■会場設備に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来れば、後ろの席にもテーブルが欲しい。 ・着席の際、前部テーブルに座れるとは思わなかった。 ・声が小さい、マイク不良。 	<p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>2 (民間)</p>

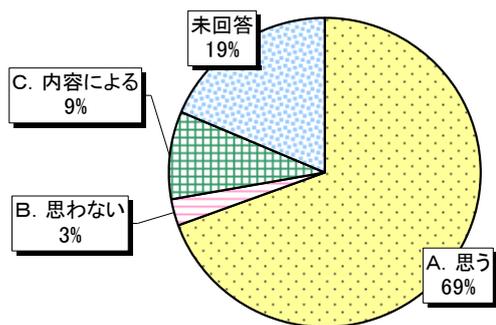
問7.

①今後も新技術を紹介するパネル展示があった方が良いと思いますか。



A. 思う	74
B. 思わない	3
C. 内容による	12
未回答	19
計	108

②今後もNETISに登録されている技術パンフレットの配布を行った方が良いと思いますか。



A. 思う	75
B. 思わない	3
C. 内容による	10
未回答	20
計	108

問8. その他、この報告会について感じたこと

回答内容	回答数(内訳)
・満足、良かった。	2 (民間)
・他分野も一緒に聞けて良かった。	1 (民間)
・また来年も期待しています。	1 (民間)
・とても有意義な会でした。	1 (民間)
・様々な切り口からの講演を聴くことができ、有意義でした。北陸の地域特性に即したもののや、特性を活かしたものがあったのも良かったと思います。	1 (不明)
・発表者の皆さんは、報文集にない情報も適宜補足して下さり、聴講できて良かったと思います。	1 (不明)
・スタッフの方々ご苦労さまでした。	1 (官公庁)
・国交省の方々の参加が少ない。(特に富山・石川県の参加者)もっと呼びかけが必要。	1 (官公庁)
・建設分野も頑張っている事を対外的にアピールできれば良い。	1 (官公庁)
・遠方からの参加を考慮し、午後スタートでお願いしたい。	1 (民間)
・建設フェアと同時は避けてほしい。	1 (不明)
・建設フェアと交互で一年間隔開催としてほしい。	1 (民間)
・会場が駅に近く、交通の便が良い。	4 (官公庁:1, 民間:2, 不明:1)
・二会場形式が良い。	2 (民間:1, 協会・団体:1)
・会場は1つにしてほしい。	1 (官公庁)
・前回の様な階段式の会場が良い。	1 (民間)
・第一会場、第二会場が分かりにくい。	1 (協会・団体)
・駐車料金の割引を実施して下さい。	1 (民間)
・駐車場の有る会場を望む。	1 (民間)
・会場の駐車場が多い方がベターです。	1 (民間)
・9/11のプログラムと実際の会場プログラムが変更になっていた。	1 (民間)
・発注者側の提案をもっと増やしてほしい。	1 (民間)
・新技術について、発注者指定型を含め、事務所の工務課等担当者が採用しないと無理。役所の担当者へ使うよう指導願いたい。	1 (協会・団体)
・発注者は有効な技術の活用をしてもらいたい。	1 (民間)

6. 開催状況等写真集

1) 開閉会・記念講演

■開会挨拶



北陸地方整備局 企画部長 橋場克司



聴講状況

■記念講演



北陸地方整備局 地方事業評価管理官 岩田英二



聴講状況

■総評・閉会挨拶



「建設技術報告会」実行委員長 平田五男
(北陸技術事務所長)



聴講状況

2) 技術報告

■第1会場 発表状況



■第1会場 聴講状況



■第2会場 発表状況



■第2会場 聴講状況



■第1会場 聴講者質問状況



■第2会場 聴講者質問状況



3) パネル展示

■パネル展示状況



■パネル展示技術パンフレット配布状況



■パネル見学状況



4) 新技術登録申請相談コーナー

■相談状況



■NETIS 登録技術パンフレット配布状況



5) 運営状況等

■運営スタッフミーティング状況



■開閉会、記念講演司会



■受付状況



■第1会場司会



■第2会場司会





■アンケート回収所



■報告会立て看板



■報告会案内（パワーポイント）

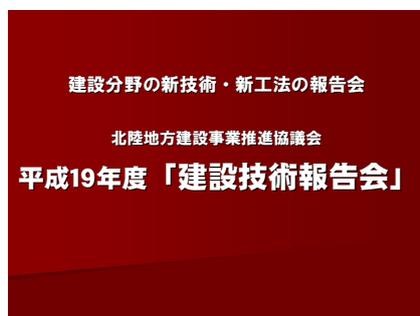


■けんせつフェア開催案内（昼休憩時に放映）



■報告会案内表示内容

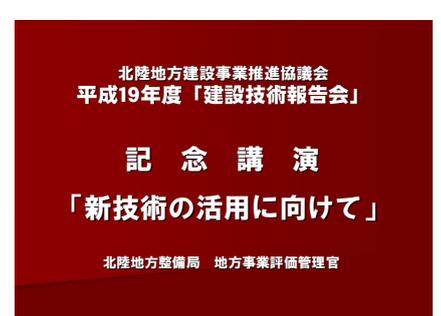
①



②



③



- ～開会式 ①②③をスライドショー
- 開会式 ①静止
- 記念講演 ③静止